

活動分野	森に親しむ懇談会（もりこん162）		
タイトル	春の伝え方		
実施日時	平成31年4月18日（木）18時45分～20時30分		
実施場所	船橋市中央公民館 5階第6・7会議室		
受講者	24名	FIC会員	24名

活動の内容 森林インストラクターとして春をどう伝えるかについての懇談会

今回は植物名を使わなくても、春を伝える方法はいろいろあることについて懇談しました。

✦ 色を伝える

春。凜とした冬の空気から、霞がかったようにモヤッと、しかし冬の間
にため込んだエネルギーを一気に解放するような、生命の息吹を感じる
季節。植物がそれぞれに躍動を始める。まずは色を伝えてみる。同じ
緑でも、緑のグラデュエーションは千差万別。観察会参加者の一首

「浅緑 黄緑 緑 濃い緑 緑は深し房総の山」。

落葉広葉樹の多い雑木林では、葉の緑だけではなく、イヌシデ、コナラ、
クヌギなどの花が、少し白や黄色となって森林（もり）に交じっている。

伝える色は「萌黄色（萌葱色、萌木色）」。観察会で集まってくれた人に春の色を感じてもらえると、家の
近くにある何でもない雑木林の方が、整備された森林よりも意外と評価が高かったりするかもしれない。

✦ 春の移り変わり

太陽の光が降りそそぐ。春が先に訪れるのは高木の樹冠と、林床のどちらが先なのだろう。太陽の光と熱
を大地が受け止めて、反射する。すると、林床の下から上へ、草本から低木へ、低木から高木へと春が移
り変わっていく。森林の中で、そんな春の芽吹きの間時間差を伝えられたら、森林の緑や季節を肌で感じて
もらえるのではないだろうか。

✦ 花

花。子孫を残していくために、多くの花が春に開花する。何色の
花が春先に多いのだろう。田中肇氏によると春先は白い花の割
合が一番。晩春になる黄色の割合が増えてくる。それから紫色や
ピンクに赤い花。虫媒花は蜜や花粉を用意して、子孫を残すため
に都合のよい特定の虫（アブ類、ハチ類など）を招待し、一面に
花を咲かせるなど、効率的に受粉してもらうよう努力をしている。
どんな花が、どんな虫に、どんな工夫をしているのか。

人間から見ると、蜜標が特別にあるようには見えない白い花が、
虫にとって魅惑的に感じるのはなぜなのだろう（写真参考）。

トチの花のような蜜標色の変化も面白い。

✦ 性転換

廣島さんが植物の世界に足を踏み入れた時、当時の先生から株分けしてもらったムサシアブミ（サトイモ
科テンナンショウ属）が根茎の大小で性転換してしまう話も興味深い。

✦ ウワミズザクラ

観察会の印象を深めてもらうためにウワミズザクラ酒の試飲してもらう。しかしウワミズザクラはお酒だ
けではない。古名はハハカ（波波迦）。奈良の香具山神社には「波波迦の碑」がある。平成2年、今上天
皇の大嘗祭関連で古儀に則り亀ト（ハハカの皮で亀甲を焼いて占う）が行われ際に、ハハカを宮内庁の下
命により奉納したことによる碑がある。さて、新しい令和ではどうなるのか。



サクラの紫外線写真：左は花びらも雄しべも
萼も赤色、右は全て白色。ミツバチ類は赤は
認識できず、白は紫外線を反射するので認識
できる。赤色の花は蜜終了、白色は未だある
よ！というサインとの説が有力。

（写真提供：上江洲氏）